

たった 3 粒のしあわせ

OWCC 中川和道 20230615

5 月連休の雪山山行では、入山日夕食のみそ汁に、フキノトウを入れるのが慣わしになって久しい。つぼみたった 3 粒で、本当に幸せだ。今回はそれを書こう。

春山は真冬に比して山の安全度がやや高い。コロナ前にはよく剣岳に入った。黒部ダムへのトンネルをくぐり、ダムの道路から黒部川まで下る山肌は、フキノトウの群生地だ。今年 2023 春の岳沢[1]でもそうだった。

フキノトウは、きわめてあくが強い。写真のつぼみをひとつ丸々使おうとするなら、あく抜きを本格的にやらねばならない。継続登攀ではそん



なことはできな
たみそ汁に、つ
にうまい。これ
れを楽しんでき

い。そこで、中川も松田も、出来上がっ
つぼみをたった 3 粒入れるだけ。これが実
でいい。春の雪山が始まる。毎年毎年こ
た。

ント中をあっと

いう間に支配してしまうフキの香りの話が出てくる。フキを食べると、いつでも、その文章の世界に浸ってしまう。

この写真を撮ったのは何年のことだったっけ？この時は珍しく、ゆでたフキノトウにみそをつけて、ビールをいただいた。入山日、安全なテント場での珍しい儀式だ。フキノトウを湯にさっと通し、味がまるやかになったところで、インスタント粉末味噌汁を戻して砂糖をちょっと加えたみそをつけたのである。こんな粗末なものだが、宝物のように、うまい。

今年の岳沢コブ尾根の初級アルパインクライミング[1]は、中川には、体力に関して、大きな大きな試練だった。このささやかな春の儀式を、中川は、あと何回体験できるのだろうか。

[1]中川和道、「山行記録 穂高岳岳沢コブ尾根-辛々勝」、『大阪山ニュース』2023 年 6 月号。